

第 16 回平和リレー講座の記録

実施日:2016 年 4 月 29 日

豊田市の高橋地区と松平地区で6カ所の戦争遺跡を訪ねた。
参加者は小学生から90代の高齢者で現地参加も含め 70 名。
マイクロバス 2 台と乗用車 1 台に分乗し現地で解説を聞き、戦争の悲惨さを実感し、平和への思いを強くした。



高橋コミュニティセンターで出発前のあいさつ

訪問地1. 渡合町の模擬原爆の被害地

終戦前日 1945 年 8 月 14 日にトヨタ本社工場を狙った模擬原子爆弾(パンプキン)の 2 発目は本社工場を外れて矢作川の今町側の河床に着弾。

爆弾の破片が両岸の集落に飛び散り大きな被害が出た。対岸の渡合町は民家 27 戸のうち 12 戸が火災で焼失した。

渡合町の民家の壁に突き刺さった模擬原爆の破片が保存されており参加者に紹介された。



渡合町の堤防で解説を聞く



27 戸のうち 12 戸が全焼



模擬原爆の破片



模擬原爆の落下地点

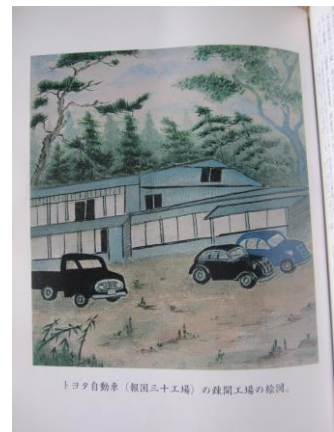
訪問地2. トヨタ疎開工場跡地(五ヶ丘)

トヨタの疎開工場は 1945 年春に旧南古瀬間猿口(現五ヶ丘)に建設された。今は団地になっているが当時は山の中だった。五ヶ丘東小学校のグラウンドに 3ヶ所、道路の南側に3ヶ所、合計 6ヶ所あった。グラウンドの 3ヶ所は基礎コンクリートだけで建物ができたのは道路の南側 3 棟で電気工事が遅れていたため操業はされなかった。

建設は軍の監督下で朝鮮人の徴用工が厳しい労働を強いられ突貫工事で耕作地も「お国のため」と言いなりにされた。



車内から疎開工場跡を見学



疎開工場のスケッチ(益富誌)

訪問地3. B29 墜落地:旧松平村坂上 木是(そだめ)現坂上町

1945年1月3日に名古屋の空襲に向かう米軍爆撃機 B29 が日本軍の戦闘機「飛燕」に体当たりされ松平村坂上に墜落した。B29 の乗員 10 名が死亡、1 名がパラシュートで脱出し松平村の山林に降下したが捕虜となり戦後帰国した。死亡した 10 人は地元の人々の手で丁寧に荼毘にふされた。



墜落地の保存活動を説明



B29 墜落地跡で記念写真

墜落遺跡の保存活動が地元の有志の方々の手で続けられている。墜落地の西方約50mの県道沿いに「B29 墜落地」の掲示板を設置した。さらに県道から墜落地までの小径を整備、「B29 の里」の案内表示板を掲示。その後、豊田市の援助を得て「B-29 友好碑」が建てられた。

当日に現地参加された住民の方から B29 墜落時の様子を直接聞いて墜落時の恐ろしさをまざまざと感じた。



B29 の大きな機体が真上に

屋の交流会(高橋コミュニティセンターで)



戦争体験を語る上野成男さん

太平洋戦争勃発の昭和 16 年(当時は小学校 3 年生)から戦後まで東京都江東区で過ごした。戦争が激しくなると毎晩のように空襲があった。米軍の艦載機がパイロットの顔が見えるほどの低空で飛来し、近所の友達も撃たれて即死した。戦争はひどいものだと思つづく。



矢並弾薬庫の証言者:天野克之さん

弾薬庫の建設は 1944 年 9 月からで親が区長をしていて建設の隊長が家に泊まっていた。当時私は挙母中学 2 年生だった。学徒勤労動員で伊保原の飛行場にある愛知航空で仕事中に米軍の攻撃で怖い思いをした。弾薬が猿投駅から牛車で運ばれるのを見た。

訪問地4. 陸軍弾薬庫跡地(矢並町ほか)

鞍ヶ池公園北の駐車場にて天野さんより説明を聞いた。弾薬庫は 30 か所以上あり県道 343 号と 487 号の道路沿いの山の斜面にコの字型の横穴が掘られた。

終戦後、弾薬庫は米軍に管理され弾薬は全て運び出されて処分された。掘られた穴は年とともに崩れ、その後も開発が進み宅地や公園の一部になって現在では痕跡はどこにも残っていない。マイクロバスで周辺を走行し道路沿いの斜面を見ながらこの地の戦中・戦後に思いを馳せた。



鞍ヶ池公園北駐車場にて

訪問地5. 学童が集団疎開した随應院(寺部町)

昭和 19 年 8 月から豊田市の各地で名古屋市から学童集団疎開の受け入れをした。高橋地区では松軒国民学校の学童が随應院と明勝寺に、松平地区では汐路国民学校の学童が祐源寺と皆福寺に集団疎開した。



集団疎開の生徒たちは 2,3 人に分れて民家の風呂に入りに来た。風呂に来たときにかき餅をあげた。



学童疎開を受け入れた寺部町
随應院の山門



随應院本堂の前で

訪問地6. 広川町空襲被害地(旧高橋村渋川)

広川町では 1945 年 7 月 19~20 日に米軍機 130 機による岡崎空襲の余波を受け、民家 3 軒が全焼し 8 名が死亡した。以前に聞き取りした証言が紹介された。爆撃から幼い子を守ろうとした母親の話、娘の嫁入り道具を取りに行こうとして亡くなった父親の話で子を思う親の気持ちが強く伝えられた。



広川公園で証言の紹介



被災した民家近くの竹藪